

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

鳥羽市地域公共交通会議 (鳥羽市)

平成20年5月28日設置

令和4年5月31日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和4年5月31日 離島航路 確保維持計画策定等

令和5年7月28日 フィーダー系統 確保維持計画変更
(鳥羽小学校～石鏡港線 橋梁工事による計画日数・回数変更)

令和6年1月19日 令和5年度評価結果送付

【鳥羽市の概要】

本市は、4つの有人離島があり、本土側でも集落が点在する地理的特性を有しています。このため、様々な公共交通手段が活用されています。

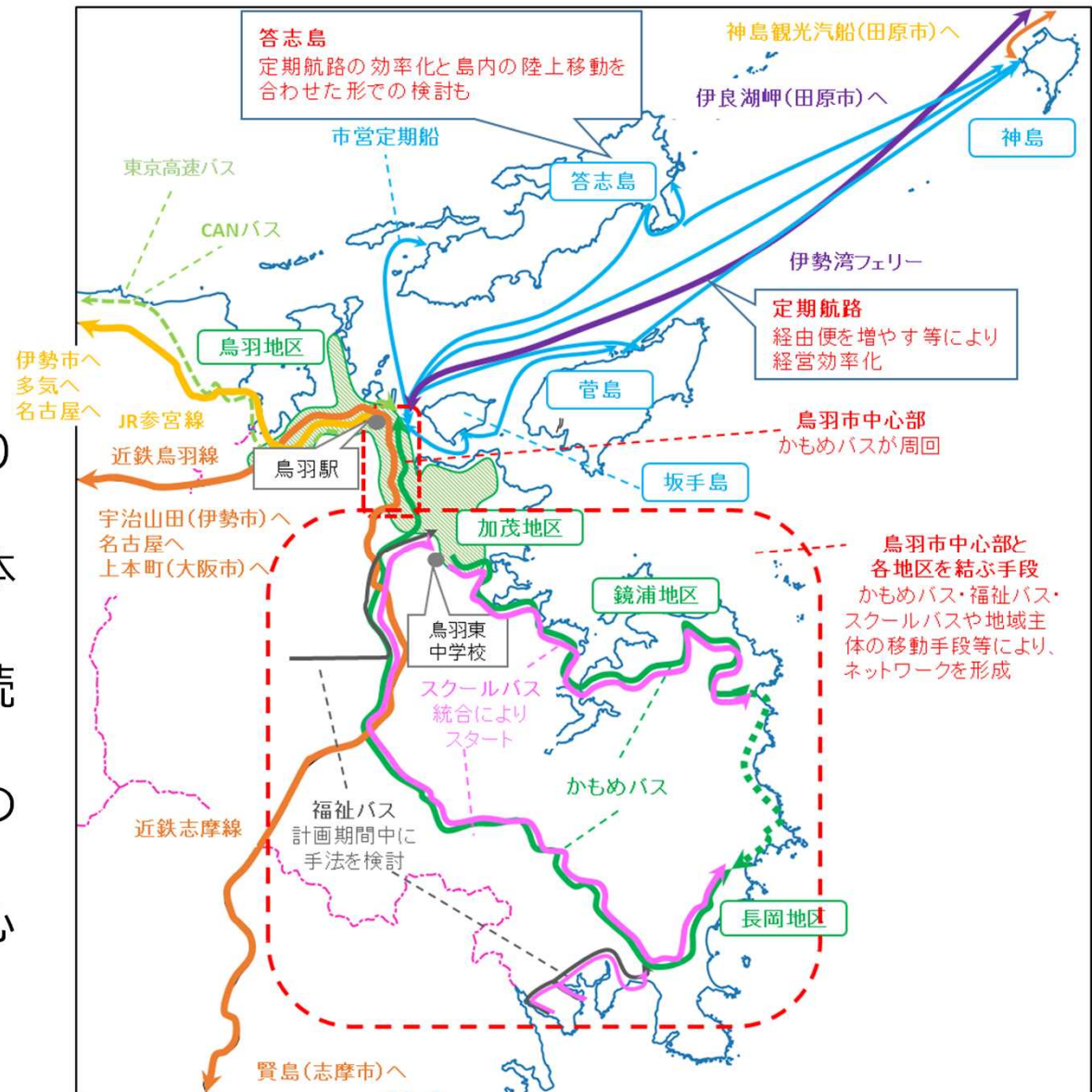
【鳥羽市地域公共交通計画】

○目的

市民はもとより来訪者も含めた移動ニーズにきめ細かく対応できるよう、地域の多様な輸送資源を活用し移動サービスを確保する。

○目標

- 1.市民の新たな利用のきっかけづくり
- 2.観光客の利用促進
- 3.暮らしの目的を達成するための一体的な交通システムの構築
- 4.まちづくりの方向性と連動した持続可能な公共交通
- 5.経営の健全化に向けた運行・運航の効率化
- 6.定期航路・かもめバスの安全・安心な運航・運行
- 7.救急搬送体制の確保



★ かもめバスの乗り方教室

(取組の概要)

かもめバスへの乗車方法、整理券の取り方、運賃の支払い方法、また車内・バス停でのマナーを学び、体験試乗を行うことで、公共交通に親しみを持ってもらい、今後の利用促進を図るため、鳥羽小学校5・6年生に対し開催した。

(実施結果)

開催日：令和5年2月13日

参加者：5年生26名 6年生33名（合計59名）

内容：乗車方法等の説明

体験試乗 5年生（鳥羽小学校～鳥羽バスセンター）

6年生（鳥羽小学校～鳥羽体育館前）



(実施結果の考察)

本教室のアンケートで、参加者のほとんどが、これからバスに乗ってみようと思うと回答した。今後も、気軽に安心して公共交通を利用できるよう乗り方教室を継続していく必要がある。

《アンケート自由記述欄より》

- ・乗り方がわかったから友だちと図書館に行ってみたい。
- ・バスがとても安全な乗り物であると知れてよかった。



★ ミジュマルデザインかもめバスの周遊券販売

(取組の概要)

観光商工課と連携し、令和4年5月からかもめバスにポケモン「ミジュマル」ラッピングバスを運行中。そこで、利用促進策の一環としてかもめバス周遊券を「ミジュマル」デザインにして販売した<発売価格は変わらず>。

(実施結果)

販売開始日：令和4年12月21日から

周遊券種類：1日券（大人・子ども）

2日券（大人・子ども）

販売枚数（令和4年度12月21日～令和5年9月30日）

年度	1日券 大人	1日券 子ども	2日券 大人	2日券 子ども
令和4年度	3,443枚	22枚	12枚	0枚
令和5年度	4,505枚	114枚	51枚	21枚
前年度比	1,062枚	99枚	39枚	21枚

(実施結果の考察)

子どもの周遊券販売枚数が、1日券では約5倍、2日券では0枚から21枚となり、利用促進の効果があった。今後も継続して販売し、さらなる利用促進を図っていく。

三重県×ミジュマル
鳥羽市宮路線バス周遊券
好評販売中!

販売期間 好評販売中！2022年12月21日から当年度の間
販売場所 鳥羽バスセンター 8:30～12:00、12:30～17:30
販売金額 1日券、大人1,000円 子ども500円
2日券、大人1,500円 子ども800円

鳥羽市宮路線バス（かもめバス）の運行状況、路線図、時刻表は公式サイトからご確認ください。

IC 三重県観光カードIC 三重県観光カードIC 三重県観光カードIC
IC 三重県観光カードIC 三重県観光カードIC 三重県観光カードIC

市営定期船の新船建造

(取組の概要)

鳥羽市所有の定期船6隻のうち「第二十五鳥羽丸」の老朽化改善及びバリアフリー対応のため、定期船の代替船舶建造が必要となったことから、船舶の基本的な設計と建造を行う。

(実施結果)

設計業務費：6,512,000円

工事請負費：548,460,000円（2か年）

〔活用補助金：補助率〕

国（離島航路構造改革補助金：1/10）

県（離島航路船舶新造事業補助金：1/10）

(実施結果の考察)

建造から38年経過した老朽化船舶であることからバリアフリー未対応なため、本取組により利用者の利便性の向上を図ることができる。また、安全運航を確保し、安心して利用できる環境を整えることができる。

新船のイメージ



第二十五鳥羽丸




もうすぐ
お別れ



目標1 市民の新たな利用のきっかけづくり

○...達成、×未達成

評価指標	目標	実績 (目標値との比較)	達成 状況	考察
<p>★乗継割引券 利用枚数</p> <p>(航路乗船者がかもめバス 一部区間を利用できる)</p> 	8,200枚	11,760枚 (43.4%増)	○	<p>移動制限がなくなり、離島住民が通院、 買い物等に利用する機会が増えたもの と思われるが、過去5年間で一番多い実績 となっている。主な要因としては、市広 報誌への掲載や定期船新船建造に係る懇 談会において、再度周知したことが考え られる。</p> <p><過去の推移></p> <p>R1 9,843枚 R3 9,045枚 R2 8,413枚 R4 9,995枚</p>
<p>★ハッピーチ ケット販売枚数</p> <p>(回数券。券自体の割引は ないが、利用すると100円引 きとなる)</p> 	5,500枚	5,656枚 (2.8%増)	○	<p>市広報誌への掲載や利用者が購入しやす い場所での販売を継続したことにより増 加したと考えられるが、前年度と比較す ると11枚減少している。これは、麻生の 浦大橋改修工事にかかる交通規制による ハッピーチケットの買い控えがあったも のと推測される。</p> <p><過去の推移></p> <p>R1 5,363枚 R3 5,422枚 R2 5,143枚 R4 5,667枚</p>

目標 2 観光客の利用促進

○...達成、×未達成

評価指標	目標	実績 (目標値との比較)	達成 状況	考察
★ 周遊券販売枚数 上段：かもめバス 下段：市営定期航路	9,700枚 1,600枚	4,691枚 (51.6%減) 1,686枚 (5.4%増)	× ○	かもめバス周遊券については、ミジュマル周遊券販売効果で217枚増加したものの目標を達成できなかった。ICカード利用により周遊券を案内する機会が減っているのが主な要因と考えられ、さらなる周知が必要である。市営定期航路周遊券は、移動制限がなくなり観光客が戻ってきていることから目標を達成することができた。
★市営定期船 乗船人数	630千人	589千人 (6.5%減)	×	坂手航路を除くすべての航路で増加傾向となり前年度から28千人増加したものの目標を達成できなかった。 観光客動向数は前年度から12.3%増加しているが、乗船人数の増加につながらなかったとみられる。今後は、観光商工課と連携し離島へ行きたくなるような取組を協議する必要がある。 ※前年度 561千人 〔内訳〕 答志航路 225千人 (16千人増) 菅島航路 98千人 (5千人増) 神島航路 41千人 (3千人増) 坂手航路 76千人 (1千人減) 桃取航路 149千人 (5千人増)

目標5 経営の健全化に向けた運行・運航の効率化

○...達成、×未達成

評価指標	目標	実績 (目標値との比較)	達成 状況	考察
★かもめバス 乗車人数	200千人	181千人 (9.5%減)	×	<p>小浜～鳥羽小学校線を除くすべて路線で増加傾向となり前年度から16千人増加したものの目標を達成できなかった。観光客動向数は増加傾向であるが、南鳥羽の観光施設は若干増加幅が小さいため目的地へのルートや移動手段の発信を行う必要がある。</p> <p>〔内訳〕 安楽島線 32千人 (3千人増) ウイリアム線 32千人 (5千人増) 鳥羽小学校線 10千人 (21人減) 国崎線 50千人 (6千人増) 石鏡線 57千人 (3千人増)</p>

目標6 定期航路・かもめバスの安全・安心な運行・運航

○...達成、×未達成

評価指標	目標	実績	達成 状況	考察
老朽船に代わる 新たな船舶の建 造	完了	基本的な設 計と建造工 事着手	○	令和6年8月就航を目指し、船舶建造に係る基本的な設計を行い、船舶建造工事に着手することができた。

○かもめバス乗り方教室の開催（離島住民編）

定期船の新船建造に伴い、定期船乗り場を一元化することから離島住民の利便性の確保が重要となる。新船建造に係る町内会との懇談会で、「かもめバスの乗り方がわからず不安である」との声があったため、離島住民に対し開催する。

○かもめバスの路線再編成検討（循環バス）

鳥羽で暮らす市民が買い物や通院、通勤通学等の目的に応じ移動できる環境の整備や観光客が大きな不自由を感じることなく市内各地を周遊できる移動手段を維持するといった鳥羽市が目指す姿を実現するため、市内循環便ルートを検討を行い、地域に密着した公共交通を維持していく。

○市営定期船の周遊券の取り扱い変更検討

現在の周遊券は、神島、菅島、和具にしか行くことができない。また、周遊ダイヤがあるわけではなく現在のダイヤに利用者が合わせて利用するものである。また、一度佐田浜に戻るとその周遊券は使えなくなるなど、利用者にとってとてもわかりづらいものである。今後は、デジタル化も見据え、利用者にとってわかりやすい取り扱いに変更する。

○観光商工課等と連携した広域的な発信

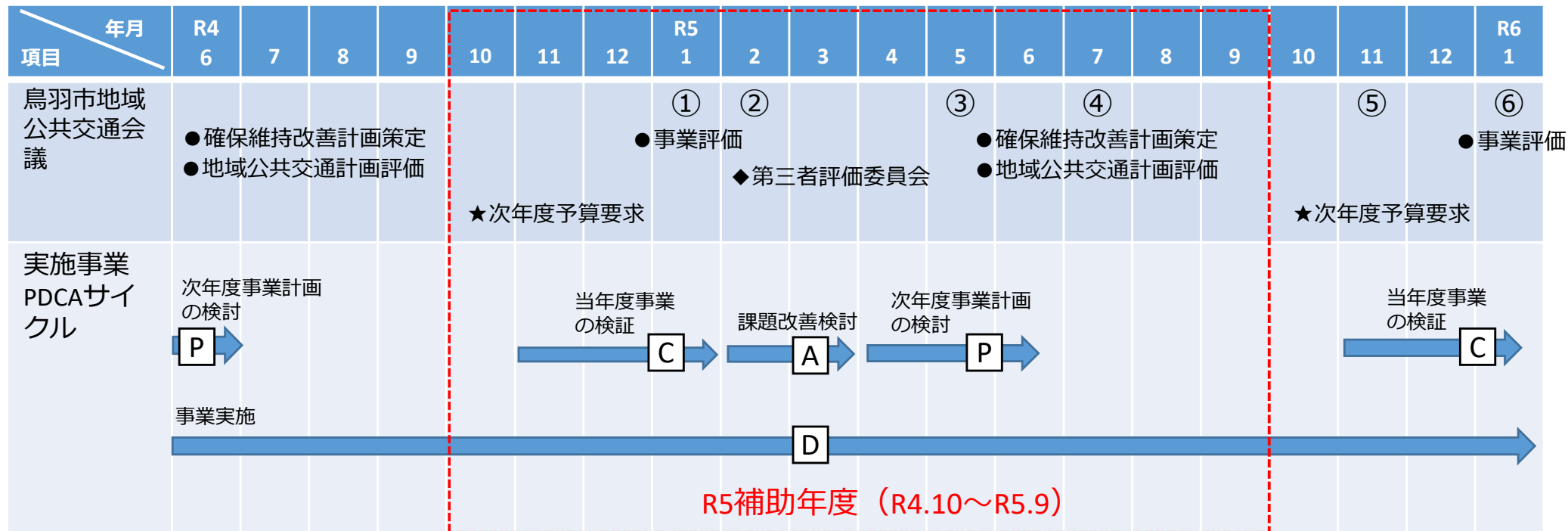
利用者の出発地から公共交通を利用してもらえるように伊勢志摩MaaSへの参加等の検討を行う。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	近鉄鳥羽駅周辺の公共交通利用促進に向けた案内表示の課題について、改修に向けた検討を期待します。	案内表示の課題について、どのようにすれば効果的に表示することができるかを検討し、案内表示改修計画を策定した。	表示の掲出者と調整しながら適切な（利用者にとって見やすく不安をかんじないような）表示に向けて取組を進めていく。
	観光目的の公共交通機関による来訪が少ないことから関係する自治体、部署、事業者と連携し市外での周知、利用啓発に期待します。	観光商工課と連携し市外での周知を行った。 ・横浜みなとみらいのポケモンイベントにてミジュマルバスの展示を行った。 ・航空会社「peach」の機内動画にて離島の魅力発信を行い市営定期船の利用促進を行った。	引き続き観光商工課等と連携し、市内外において、公共交通の利用促進を含めた発信を行う。また、伊勢志摩MaaSに参加し、かもめバス及び市営定期船に各施設でのお楽しみ特典などをプラスし市内外へ発信できるよう協議していく。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	地域公共交通計画に位置づけた取組を着実に推進されることを期待します。	<p>かもめバス及び定期船の周遊券をデジタル化し特典を付与したデジタルきっぷを販売した。</p> <p>商品名「ばすぐる」「ふねぐる」 販売枚数 1,500枚 利用実績 ばすぐる 994枚 ふねぐる 495枚 利用施設 14施設 特典利用額 5,629,900円</p>	定期船の周遊券のデジタル化を見据え、現行の取り扱いを見直し、利用者がわかりやすく使いやすい周遊券となるよう協議していく。
	今後もコロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることをひきつづき期待します。	車内、船内の抗菌加工実施済みポスターの掲示及び運転手や船員のマスク着用を徹底し、利用者が安心して乗車、乗船できるよう心掛けた。また、市営定期船乗り場には、消毒液、消毒マットを設置した。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことによりマスク着用は個人の判断となったが、棧橋の消毒液については、継続して設置し、インフルエンザやその他の感染症の蔓延防止に努める。

※前回：令和5年3月10日、前々回：令和4年3月10日

【年間単位の進捗管理・評価スケジュール】



【鳥羽市公共交通会議の開催状況】

会議名	開催日	主な議事内容
① 令和4年度第1回全体会	R5.1.16	・R4事業評価・R4離島航路確保維持計画等の変更
② 令和4年度第2回定期航路幹事会	R5.2.15	・市営定期船の新船建造に係る協議
③ 令和5年度第1回バス幹事会	R5.5.30	・R4公共交通計画評価等結果・R6フィーダー系統確保維持計画 ・ダイヤ改正・案内サイン改修中間報告・かもめバス路線再編検討
③ 令和5年度第1回定期航路幹事会	R5.5.30	・R4公共交通計画実施計画評価等結果・R6生活交通確保維持改善計画
④ 令和5年度バス幹事会（書面決議）	R5.7.28	・R5フィーダー系統確保維持計画変更協議（計画運行回数・日数の変更）
⑤ 令和5年度第2回バス幹事会	R5.11.14	・バス停移設・かもめバス循環便の検討
⑥ 令和5年度第1回全体会	R6.1.5	・R5事業評価 ・案内サイン整備改修計画策定 ・公共交通計画と補助制度との連動化

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 5日

協議会名: 鳥羽市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	小浜・鳥羽小学校線 第1系統 小浜漁協前～鳥羽小学校区間	・かもめバスや定期船に円滑に乗車(乗船)できるように、グーグルマップ等の経路検索に対応できる時刻表の見え方に引き続き取り組んだ。	A 計画どおり運行することができた。	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果】 ○乗継割引券利用枚数 ◇目標8,200枚/年 ◆実績11,760枚(43.4%増) [理由等] 移動制限がなくなり、離島住民が通院や買い物等に利用する機会が増えたと見られる。	・運転免許証自主返納者支援事業の周知を行うため、引き続き広報誌等に掲載し、また、市民課や健康福祉課の窓口チラシ及び申請書を設置し、いつでも申請しやすい環境を継続して整えていく。
三重交通株式会社	小浜・安楽島線 第2系統～第15系統 小浜漁協前～鳥羽安楽島区間	・運転免許証自主返納者支援事業やハッピーチケット等の各種割引制度について、周知をするため、「バスの日」にちなんで市広報誌令和5年9月号に掲載した。また、定期船新船建造に伴う離島町内会との懇談会の意見交換の中で乗継割引券やハッピーチケットの使い方の説明し、離島住民へ周知した。		○ハッピーチケット発券枚数 ◇目標5,500枚/年 ◆実績5,656枚(2.8%増) [理由等] 市広報誌への掲載や利用者が購入しやすい場所での販売を継続したことや離島での懇談会にて再度周知したことにより増加したものと見られる。	・ハッピーチケット等の各種割引制度については、引き続き広報誌等に掲載し、市民に周知を行う。また、定期船課窓口の他にハローや小浜漁協など、利用者が購入しやすい場所での販売を継続し、利用者の拡大を目指す。
三重交通株式会社	小浜・ウイスタリアン線 第16系統～第18系統 小浜漁協前～ウイスタリアン前区間	・観光商工課と連携し、令和4年5月から運行中のポケモン「ミジュマル」ラッピングを施したかもめバスを引き続き運行した。また、かもめバス周遊券をミジュマルデザインとして販売した。		○周遊券発券枚数 ◇目標9,700枚/年 ◆実績4,691枚(51.6%減) [理由等] ミジュマル周遊券販売効果が前年度より217枚増加したものの目標には届かなかった。ICカード利用により周遊券を案内する機会が減っていることも要因の一つと考えられることから、更なる周知が必要である。	・観光商工課と連携し、伊勢志摩MaaSに参加する等、観光客の出発地から公共交通利用を考慮してもらえるような広域的な発信方法についても検討する。
三重交通株式会社	鳥羽・国崎線 第19系統～第37系統 鳥羽バスセンター～国崎区間	・公共交通に親しみを持ってもらい、利用促進を図るため鳥羽小学校5.6年生に対し乗り方教室を開催した。		B かもめバス乗車人数 ◇目標200,000人/年 ◆実績181,341人(9.3%減) (路線別乗車人数及び昨年度からの増減数) 小浜～安楽島線 31,850人 2,857人増(9.9%増) 小浜～ウイスタリアン線 32,270人 5,045人増(18.5%増) 小浜～鳥羽小学校線 9,885人 21人減(0.2%減) 鳥羽～国崎線 50,025人 5,988人増(13.6%増) 鳥羽小学校～石鏡港線 57,311人 2,810人増(5.2%増)	-「バスの乗り方教室」を市内の小中学校で開催することで、市民の新たな利用のきっかけづくりとする。 また、定期船新船建造に係る佐田浜一元化により利便性が損なわれないよう離島住民に対し、「バスの乗り方教室」を開催し、地域に密着した公共交通を目指し、だれでも気兼ねなくおでかけができるような環境を作っていく。
三重交通株式会社	鳥羽小学校・石鏡港線 第38系統～第66系統 鳥羽小学校～石鏡港区間 ※令和5年6月5日～7月5日の平日は計画運行回数、同日数を変更したが、系統数変更なし。	・令和5年6月5日～7月5日(平日のみ)に麻生の浦大橋改修工事に係る交通規制により今浦発着で運行を行った。		【理由等】 目標は達成できなかったが、前年度の164,662人から16,679人の増加となった。 鳥羽小学校線は、令和4年11月頃コロナ第8波の影響により減少したものと見られる。 観光客動向数を見ると増加傾向であるが、南鳥羽の観光施設は増加幅が若干小さいため目的地へのルートや移動手段の発信を行う必要がある。 (観光客動向数 前年度1,767,000人 今年度1,986,000人)	・市民が買い物や通院、通勤通学等の目的に応じ移動できる環境の整備や観光客が大きな不自由を感じることなく市内各地を周遊できる移動手段を維持するため、市内循環便ルートの検討を行い、地域に密着した公共交通を維持していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 5日

協議会名: 鳥羽市地域公共交通会議

評価対象事業名: 離島航路

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を分析の上記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
鳥羽市	鳥羽～神島航路 鳥羽～離島4島間の運航	<ul style="list-style-type: none"> 定期船やかもめバスに円滑に乗船(乗車)できるように、ゲートマップ等の経路検索に対応できる時刻表の見える化に引き続き取り組んだ。 定期船新船建造に係る離島住民懇談会を開催し、定期航路の現状をご理解いただき、佐田浜一元化やダイヤ改正等の意見交換を行った。 観光商工課と連携し、三重県事業であるデジタルスタンプラリー『三重をマルっとめぐる旅2023』において、和具待合所をスポットとして、利用促進に努めた。 観光商工課と連携し、航空会社『peach』の機内にて、離島の魅力を発信して、定期船の利用促進を図った。 定期船新船建造について、世界情勢等により船舶の大きさや材質の変更を余儀なくされたが、令和5年5月19日入札後、建造事業者が決定し、同年6月9日に建造工事着手となった。 	A 計画どおり運航することができた。	B 【鳥羽市地域公共交通計画における評価指標及び達成状況】 ○周遊券発券枚数 ◇目標1,600枚/年 ◆実績1,686枚(5.4%増) [理由等] 主に観光目的で利用されるため、前年度より観光客が増加していることが要因であると見られる。 ○市営定期航路乗船人数 ◇目標630千人/年 ◆実績589千人(6.5%減) (航路別乗船人員及び昨年度からの増減数) 答志航路 225,259人 16,260人増(7.8%増) 首島航路 97,718人 5,153人増(5.6%増) 神島航路 40,918人 2,634人増(6.9%増) 坂手航路 76,082人 878人減(1.1%減) 桃取航路 149,365人 5,539人増(3.9%増) [理由等] ・定期船乗船人員は589,343人で目標の630,000人を達成することができなかったが、前年度より28,707人の増加となった。 移動制限がなくなり離島住民が買い物や通院等で島外へ行く機会が増えたことが理由の一つであると見られる。伸び悩んだ理由は、観光客動向数を見ると前年度より12.3%増加しているものの乗船人員の増加につながらなかったと推測される。 (観光客動向数 前年度1,767,000人 今年度1,986,000人)	<ul style="list-style-type: none"> 観光商工課と連携し、伊勢志摩MaaSへ参加することで、たくさんの観光客に知ってもらい、離島へ行きたいと思ってもらい、定期船の利用促進に繋げていく。 現行の周遊券は使用方法が難しくすぐには理解しづらいため、デジタル化も見据えたわかりやすく使いやすい周遊券を作成し、利便性の向上を目指す。 定期船新船の就航に合わせ、市民や観光客に定期船のことを知ってもらい、たくさん乗船していただくために、とばすまっぷを含めたパンフレットの作成やその他定期船に関するノベルティグッズ等を作成する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年 1月 5日

協議会名:	鳥羽市地域公共交通会議
評価対象事業名:	鳥羽市生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統及び離島航路)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【鳥羽市地域公共交通計画】</p> <p>○基本方針 鳥羽市における今後の望ましい地域公共交通のあり方を再検討した上で、市民や来訪者の移動ニーズにきめ細かく対応できるよう、地域の多様な輸送資源を活用し、移動サービスを確保する。 本土側では、かもめバスやスクールバス、福祉バスや福祉移送サービスのほか、地域主体による移動サービスなど多様な移動手段が地域の実情に応じて円滑に運行することを目指す。 離島については、市営定期航路は唯一の公共交通手段であり、生活に必要な不可欠なインフラとして維持する。</p> <p>○計画の目標</p> <p>I 市民の新たな利用のきっかけづくり 運転免許証返納や進学といった人生の節目において、市民に働きかけを行います。また、市民が公共交通に親しみを感じてもらえるような機会を創出します。</p> <p>II 観光客の利用促進 観光客の周遊ツールとして機能し、来訪者の満足度向上に応えられるような交通情報の提供を目指します。</p> <p>III 暮らしの目的を達成するための一体的な交通システムの構築 市民生活に必要な移動手段の乗り継ぎや、市外に通じる交通機関への結節が重要となる。利便性を確保するため、円滑な結節に向けて協議していきます。また、待ち時間が生じた場合にも周辺情報を入手でき、時間を有効に使えるような環境を整えます。</p> <p>IV まちづくりの方向性と連動した持続可能な公共交通 今後、担い手不足が生じる事態を見据え、かもめバスや定期航路を現実的に無理なく運行・運航できる体制となるようにダイヤを再編します。</p> <p>V 経営の健全化に向けた運行・運航の効率化 かもめバス、定期航路については、人口減少及び少子高齢化が進む中、運行・運航収入が減少している一方、運行・運航に要する経費は増大傾向にあります。このため、他の移動サービスとの重複の洗い出し等を行いながら、経営状態の健全化に向けた効率の良い運行・運航を目指します。</p> <p>VI かもめバス・定期航路の安全・安心な運行・運航 かもめバスでは、バス停の安全な利用について委託業者及び関係機関と協議・検討を行います。定期航路事業については、老朽化した船舶の更新を行い、安全な運航を継続していきます。新型コロナウイルス感染症対策については、車両・船舶内の予防対策を継続して行い、安心して利用できる環境を整えます。</p> <p>VII 救急搬送体制の確保 地域や船舶所有者との協議により、緊急時に迅速に搬送できるような体制を継続していきます。</p>